

## アルス国際製靴学校研修体験記

(平成15年 9月22日～12月24日)

タカラ製靴株式会社 宝地戸 英 次

イタリアのミラノは、世界でもトップクラスのファッション大国で、街並みや通りを歩く人など、オシャレで刺激的なモノや人で溢れていました。そのミラノでの学生生活は、日本に居ては得られない感覚が経験でき、感性を磨くには申し分のない地でした。

世界中から集まったクラスメイト達は、意欲的で前向きな人ばかりで、お互いにより刺激となり活気がありました。様々な国の文化が勉強でき、新しい異国の友達が出来たことは、私の人生において貴重な財産になりました。

3ヶ月間仕事を離れ、集中して勉強ができ、毎日が新鮮で充実していました。それだけに、このような生活がこの先出来なくなると思うと、このような機会を与えてくれたことを心から感謝しています。



(写真1)

### 授業内容

授業は、基本的に英語とイタリア語の両方で行われますが、私達のクラスはみんな英語の方が理解できるという事で、全て英語で行われました。分からない事や気になった事などの質問は、納得するまで丁寧に説明していただけるので、出来ない人は1人もいませんでした。

◎授業時間；月～木曜日

9：00～12：00

13：30～17：00

；金曜日

9：00～12：00

13：30～16：00

；土、日曜日、祝日は休校

◎クラス編成

2クラスで、計26人。

- ・日本 = 5人
- ・韓国 = 6人
- ・イタリア = 4人
- ・ベルギー = 3人
- ・スペイン = 3人
- ・ドイツ = 1人
- ・ポルトガル = 1人
- ・アメリカ = 1人
- ・コロンビア = 1人
- ・イングランド = 1人

◎実技

- 1 木型に正しくセンターラインを引く方法から始まり、基本原型の取り方。
- 2 基本モデルとその応用デザインの型紙作成。
  - ・外羽根
  - ・ショートブーツ
  - ・内羽根
  - ・ロングブーツ

- ・ パンプス                   ・ 袋モカ
  - ・ サンダル                 ・ サボ
  - ・ モカシン
  - ・ アシンメトリーデザイン
- 3 デザイン画作成。
- 4 提出課題
- ・ Monday Test = 週に1回、型紙と紙アップパーを作成し提出。
  - ・ Envelope = 月に2～3回、型紙、紙アップパー、裏型、裁ち型、デザイン画を作成し提出。
  - ・ Special Work = 一回だけ、型紙、紙アップパーデザイン画を厚紙に貼り、教室に掲示する。(写真2)



(写真2) Special Work

◎理論

足と靴

(種類・名称)

ラスト・プロポーション

(名称・測定方法・基本数値算出方法)

インターナショナル・サイズ

(表示別サイズ換算方法)

革について

(種類・用途・なめし方・面積計量)

靴雑感

(種類・構造)

製法

(種類・特徴・用途)

グレーディング

(CAP-CAM使用方法)

裁断

(裁断方向・部位)

◎卒業制作

- a. 学校にある材料を使い、フリーデザインでアップパーを2点以上作成。
- b. 理論の講義で習ったことをまとめ、マイブックを作成。(日本語可)

◎卒業試験

- c. クラシックモデル4点(紳士外羽根、紳士内羽根、婦人パンプス、婦人一本バンド)のEnvelope(上記、実技-4参照)を提出。
- d. 紳士、婦人、子供のいずれかを選び生徒全員でくじ引きをし、デザインを決め、そのデザインのEnvelopeを提出。

◎面接試験

面接官5人に対して生徒2人で行われ



(写真3)

左からアウグスト先生、ロベルト先生、パオロ先生

過去に提出したものの全ての評価と、理論に関する口答質問。

## 先生について

アルス国際靴学校といえば、ルナティーシステムでお馴染みのルナティー先生ですが、そのルナティー先生は一昨年長い現役生活から引退されていました。が、卒業試験とその前の約一週間の授業はルナティー先生に教えてもらいました。引退されたのにとてもお元気で、大きい声と年齢を感じさせないパワーに圧倒されっぱなしでした。

そして、ルナティー先生の後を引き継いだのはパオロ先生で、ほとんどの授業はパオロ先生に教えてもらいました。今までイタリア語版でしかなかったルナティーシステムブックの英語版を担当し、授業では丁寧な英語で、みんなが分かりやすいようにゆっくり進行し、実技のほうでは、パターンメイキングを早業で披露するなど、メリハリのある授業でした。

その他に、軽いジョークで面白おかしく授業をする、サッカー好きなロベルト先生

と、新人のアウグスト先生に教わりました。

どの先生方もパターンメイキングは基本的に同じですが、多少違う点があり、いろいろなやり方が勉強でき、確認する事や発見する事がたくさんありました。

## 研修を終えて

研修を振り返ると、初めは長く感じていましたが、終了してみると、あっという間の3ヶ月でした。

靴の本場イタリアで研修を受けた事は、単に研修内容だけではなく、長期滞在する事でしか得る事の出来ない様々なものがあり、全てを理解するには時間が必要ですが、引き出しの多い人間を目指しがんばっていききたいと思います。

最後になりますが、様々な形でご協力して頂いた関係者の皆様、厚く御礼申し上げます。



(写真4) ルナティー先生

---

## アルス国際製靴学校研修体験記

内田製靴株式会社 中野 隆

---

約3ヶ月間、ミラノにあるARS国際製靴学校で靴に関する勉強をしてきました。私にとって、海外の生活は初めてでしたので、期待と不安で胸がいっぱいでした。

9月22日に日本を出発し、パリで飛行機を乗り継ぎイタリアに到着しました。長旅で疲れていましたが、このイタリアで3ヶ月間の生活が始まるのだと改めて実感しました。

学校は、9月25日から開講しクラスは2クラスあり、私のクラスは17名で母国日本と、韓国、ドイツ、スペイン、ポルトガル、ベルギー、もう一つのクラスはイタリア、スペイン、コロンビア、カルフォルニアなど世界中から集まっていました。

授業のカリキュラムは、月～木、9：00～17：00、金曜日は9：00～16：00で、毎日講義と実技があり、毎週月曜日に型紙のテストがありました。

今回、先生はパオロ先生でした。「ルナティーシステム」を確立したルナティー氏はすでに引退されており残念ではありましたが、最後の10日間位ルナティー先生が復帰され2クラス合同で授業を教わる事ができた事は非常に感動しました。

授業は、主に型紙と紙アップーを作っていきます。私自身、多少

型紙の経験はありましたが会社でのやり方とまったく違っていましたので、始めのうちは慣れるのに時間が掛かりました。実際、先生がお手本としてデザイン画から型紙まで見せてくれるので、語学に自信のない私でも先生の手の動きなどを見てなんとかこなすことができました。基礎から学べたことは私にとって非常に良い経験になりました。また、学校の授業以外にも他の国の人たちと交流ができた事は、私にとって貴重な財産となりました。私は、語学があまりできませんでしたが、同じ教室で学ぶもの同士お互い言葉が通じなくても段々仲良くなり、いっしょにサッカーの試合を見に行ったり食事をしたりしました。日本ではなかなか経験できないことだと思います。



授業風景

## 研修内容

研修期間：2003年9月25日～12月19日

研修場所：ARS SUTORIA

講師：PAOLO MARENGHI

### ○型紙

外羽根、内羽根、モカシン、非対称デザイン、サンダル、ブーツの型紙製作方法と数値設定

### ○講義

- ・ラストのプロポーション（各部名称及び数量設定を求める計算方法）
- ・インターナショナルサイズ (French, English, American, inchi, cm) の換算法
- ・裁断方法（一枚革の各パーツの裁断方向と裁断部分について）
- ・革について（革の種類及び用途、なめし方の説明、計量方法）
- ・製靴法（種類別による説明、特徴、用途）
- ・足長、足囲 (French, English, American) のグレーディングについて）

## 卒業試験

卒業試験は2日間あります。型紙一点と面接です。それ以外にもその前の日に、今までの講義内容をまとめたものをファイルにして提出します。このファイルは、母国語で書いてOKです。あと、在学期間中に自分で考えたデザイン2点を、実際に革を裁断してアップパーを作り、吊り込みまでしてもらいます。

1日目：型紙の試験があります。前の日に、生徒それぞれが紳士靴、婦人靴、子供靴かを選び、先生が人数分のデザイン画を用意して、くじ引きで自分がどのデザインをするのか決めます。当日、そのデザイン画をもらい型紙、紙アップパーを作りデザイン画も書いて封筒に入れて提出します。

2日目：面接試験があります。面接官は、

ルナティー氏を含めて先生3人とルナティー氏の教え子2人の計5人です。2人1組で行われます。内容は講義の内容をまとめたファイルをもとに、自分で考えたデザインの型紙とクラシックモデル4点の型紙、紙アップパーと授業でいままで提出した型紙、デザイン画と1日目の試験の型紙を持っていきます。提出物のチェックが行われ、最後に理論に関する質問をされ終了します。

## 今後派遣される方へ

レジデンスは1人部屋と2人部屋があります。1人部屋がシャワー付でキッチンなし、2人部屋がバス付キッチン有り、全室にトイレ、テレビ、冷蔵庫、電話があります。キッチンには食器と調理器具がそろっています。月曜日～金曜日まで毎日、掃除とベットメイクをしてくれます。月、水、金にはタオルなども替えてくれます。窓を開けていると蚊が入ってきます。11月を過ぎてもいるので注意したほうがいいと思います。

交通機関は、ミラノは基本的に地下鉄、バス、トラム（路面電車）です。切符は共通でタバッキ、キオスクなどで買えます。種類は1回券、10回券、1週間券等あります。25歳以下の方は、割引の定期がありお得です。最初に刻印してから75分間は乗り継ぎ自由です。しかし、地下鉄は一度外に出てしまうともう一度刻印しないと入れません。バス、トラムはそのまま乗れます。

両替は、レートや手数料などを考えると銀行がいいと思います。銀行もグループによってレート、手数料が若干違います。

電話については、レジデンスの電話は通話料が高いです。コーリングカードというものがキオスクなどで売っています。それを使うと、通話料が安く済んで得だと思

ます。

イタリアはストライキに注意したほうが良いと思います。バス、トラムなど動かなくなります。そのため、タクシーがほとんど捕まりません。私の場合は、帰りの日にストライキにぶつかり、レジデンスでタクシーを呼んでも電話がなかなか繋がりませんでした。

### 研修の効果

靴の本場イタリアで、靴の勉強をすることができるということは、貴重な経験だと思います。この学校には、イタリア国内の人たち以外にも、世界中から製靴法を学びに入学してきます。また、靴の勉強だけではなく、他の国の人々とコミュニケーションがとれる機会でもあり、日本人にはない感覚や自分自身の新しい発見ができる環境でもあると思います。3ヶ月間仕事を離れ、集中して型紙の基礎や靴に関する知識を学べたことは、今後仕事を続けていく上で貴重な財産となりました。

普段、仕事の中で覚える型紙は上司や先輩から教えてもらいますが、仕事の流れの中で教わるが多いため、仕事を処理するためのテクニックが先行してしまい、基礎的なことが身につかないままになってしまいがちです。

「ルナティーシステム」と呼ばれる型紙のおこし方は、普段自分がやっている方法とは違い、初めて型紙を教わる者ばかりではなく、経験者でも経験や勘に頼らず、早く正確に型紙を作ることができる画期的な方法でした。また、普段仕事で関わらないタイプの型紙や紳士靴、子供靴さらに何種類かの製靴法を知ることができ、知識の幅も広がりました。

この3ヶ月間は、靴の本場イタリアで靴に対しての基礎知識の確認、技術の向上、靴以外にもファッションに対する知識、感覚を磨く絶好の機会となりました。この研修で得た知識、経験を生かしこの業界に貢献していければと思います。

最後に、この派遣事業の為にご協力、アドバイス等して頂いた皆様、本当に有難うございました。



パオロ先生（教室にて）



ルナティー氏（教室にて）